



天気の良い日のスポーツは最高に気持ちいいですね

### まつやま 2007 スポーツフェスティバル 松山地域のスポーツの祭典(松山)

6月17日、松山B&G海洋センターなどを会場にして「まつやま 2007 スポーツフェスティバル」が開催されました。これは、スポーツ行事が盛んだった旧松山町で、一日にいろいろなスポーツを楽しむイベントとして平成11年から始まったもので、600人を超える参加者は、テニール、家庭バレーボール、グラウンドゴルフなどを楽しみました。今回は、保健推進員の協力で健康相談コーナーも開設され、スポーツだけでなく健康についても考えることができました。

5月28日、中山小学校全校児童19人が、ホタル保全活動の一環として東北農政局大崎上流農業水利事業建設所で取り組んでいる「ヘイケボタルの幼虫の放流」に参加しました。放流場所は、鳴子温泉南原地区にある第2ホタル移植池です。放流には地元の人も加わり、児童らは、手渡されたトレーの中の小さなホタルの幼虫に歓声を上げ、とてもにぎやかな放流となりました。この日放流されたヘイケボタルの幼虫は、約500匹。この夏には成虫となり、美しい光を放って夜空を舞うことでしょう。

### ヘイケボタルの幼虫の放流 夜空を彩るホタルよ育て(鳴子温泉)



夏の夜空が楽しみです!



地震が起きても慌てないように、真剣に訓練しています

### 総合防災訓練 震災に備えよう(古川)

6月3日、古川第五小学校で総合防災訓練が行われ、約1,500人が参加し、地域住民の防災意識の高さがうかがえました。この防災訓練では、宮城県沖を震源とするマグニチュード8.0の地震が起き、大崎市で震度6強を観測したことを想定。参加者は、バケツリレーによる初期消火活動や、消火器を使った初期消火訓練などを行いました。近い将来、高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震。参加者の皆さんは、実際に地震が起きたときのように、真剣に取り組んでいました。

6月6日、三本木公民館を会場に第1回三本木大学が開催されました。三本木大学は、三本木地域の人を対象に生涯学習の一環として、広い視野を持って生きがいのある生活を送ることを目的とした公民館主催の事業です。この日は、古川公証役場の木島敏秀さんを講師に招き「地域を取り巻く諸問題について」の講話が行われました。参加した約30人の受講者は、金銭の貸し借りにおける注意事項や、相続、遺言についてのアドバイスなど具体的な例を挙げた話を興味深く聞き入っていました。

### 三本木大学開校 見聞を広めて豊かに生きる(三本木)



講師の貴重な話に耳を傾けます



これから露地野菜がでてきて、ますます充実するそうです

### 有 野菜直売所「かあちゃん市」 備館駅の新名物(岩出山)

家庭から出る生ごみなどを堆肥に活用して、リサイクル活動を進めている西大崎生ごみリサイクル研究会「とまとクラブ」が、有備館駅前広場に野菜の直販所「かあちゃん市」を開設しました。開店初日となった6月10日は、その日の朝に収穫したばかりの新鮮な有機栽培の野菜を中心に、山菜や手づくりこんにやく、山野草など、バラエティーに富んだ約30品目が並び、近所の人や有備館に訪れた人たちから大変好評でした。「かあちゃん市」は、11月まで毎月第2・第4日曜日午前9時から正午まで開設します。



観客の盛り上がり選手も奮闘!

### 白 東北楽天イーグルス対東京ヤクルトスワローズ 熱戦プロ野球(鹿島台)

6月9日、鹿島台中央野球場で、楽天対ヤクルトのプロ野球イースタンリーグ公式戦が行われ、会場には約1,650人のファンが集まりました。プロ野球選手の迫力あるプレイが間近で見られるとあって、ファンも興奮ぎみ。試合前には、多くの子どもたちが「サインをください」と、大きな声でベンチにいる選手にサインを求めています。試合は、初回に2点を挙げた楽天が、その後も追加点を重ね5対1でヤクルトに勝利。地元だけに楽天のファンが多いようで、応援席も盛り上がりしていました。



べったんべったん! 楽しいもちつき

自分でついたおもちほおほいしいね



初めての田植え体験。泥だらけになって楽しみました

### 市民発! おおさきの魅力を伝えよう(田尻) 平成19年度「田んぼの学校」開校

6月3日、田尻地域北小塩において、田んぼや水路などを学びの場・遊びの場として、その魅力を都市部の人たちに体感してもらう目的で「田んぼの学校」が開校されました。「田んぼの学校」は、北小塩地区民が主体となる北小塩友人ピア環境保全推進協議会主催によるもので、田舎の夏祭り体験や稲刈り、収穫祭など全4回開校されます。

初日となるこの日は、仙台市などから16人の親子が参加し、地域の子もたち、スタッフあわせて約70人が田植え体験、田んぼ・水路の生き物探索をしました。はじめは田んぼに入るのもおっかなびっくりだった都会の子もたちも、地域の皆さんの優しい指導と地元田尻の子もたちの元気な姿に触発され、すぐに一緒になって素足に感じる泥の感触を楽しみながら、泥だらけになって田植えを満喫していました。田植え終了後は、もちつき体験も行われ、豊作を祈願する「早苗饗」では自分たちでついたおもちを口いっぱいほおばっていました。

住民自らが発信する「おおさきの魅力」、今後もどんどん広げていきたいものですね。